

令和4年度 臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：検査部

第3期中期目標・中期計画期間中の臨床研究テーマについて該当するものにチェックを入れてください。（塗りつぶし可）

- 1. 口腔領域における新規組織再生・再建法の開発
- 2. 高齢者の特性に配慮した口腔疾患の予防法・診断法・治療法の開発
- 3. 顎口腔機能の維持増進に関する研究
- 4. 歯科医学臨床教育の質保証に関する研究
- 5. その他

研究期間：2018年1月9日～2023年1月9日

研究課題名：病理学的検査における細胞診断と組織診断との比較検討

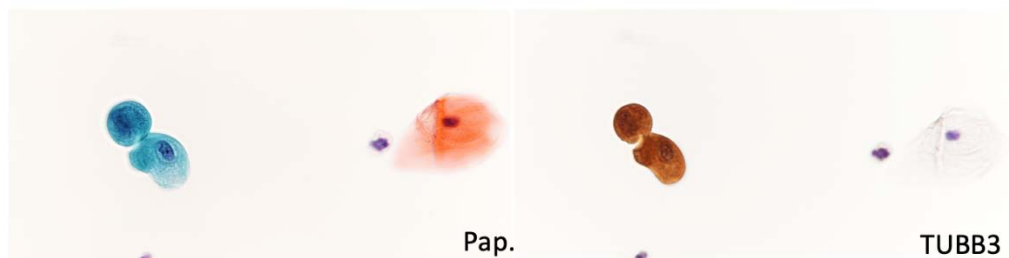
研究課題の概要及び成果：

Cass III beta-tubulin (TUBB3)は中枢および末梢神経、精巣に発現が認められる細胞骨格の構成要素である。様々な腫瘍で異常発現が認められており、頭頸部癌においても高率で発現することが報告されている。そこで我々は、口腔扁平上皮癌(OSCC)の早期診断にも応用可能ではないかと考え TUBB3 の発現を免疫組織化学的に検討した。

TUBB3 発現は 91.6%の OSCC 組織標本で確認され、乳頭腫（良性腫瘍）全症例で認められなかった。高分化型 OSCC では、腫瘍実質中間層に特異的に発現し、LBC 検体においても中層細胞に TUBB3 発現が認められた。

口腔に発生する高分化型 OSCC では細胞異型に乏しく細胞診偽陰性となる例がしばしばみられるが、中層細胞が採取できている場合は TUBB3 免疫染色を併用することで偽陰性例を減らし、正診率を向上できると考えられた。また、偽陰性例において TUBB3 陽性中層細胞を観察すると、厚い細胞質や核間距離の異常などの形態変化が認められた。OSCC 診断にあたり、中層細胞の観察も重要と考えられた。

上記概要・成果に関連する図表等



当該臨床研究が「口の難病プロジェクト」に関連しているか否か下記のBOXのいずれかにチェックを付してください。（塗りつぶし可）

- 関連がある
- 関連はない